

消防団組織の変遷と背景

背景

地域に根ざした28部隊も、新入団員の確保は厳しさを増し、地域差はあるものの、団員の高齢化は確実に進行している。

昭和29年3月31日
長門市連合消防団として発足

昭和29年3月31日

2町2村合併による長門市の誕生に伴い、消防団も合併し、1団本部28分団、定員千五百人で長門市連合消防団として発足した。

昭和32年1月

長門市連合消防団は長門市消防団と改称、団員定員数は800人になる。

昭和40年10月

組織改革を行い1団本部4分団28部隊、団員定員数700人の組織となる。

昭和48年4月

1市2町1村による広域消防が発足、常備消防体制が確立され、消防力が大幅に強化された。

昭和54年1月

団員定員数が585人になる。

昭和56年1月

団員定員数が500人になり現在に至る。

改革の概要

※分団・部隊の組織改革

◎団員数は現行を維持し、4分団28部隊を5分団14部隊に再編し、組織の強化を図る。

※自然災害対応資機材の充実

◎地震・津波・風水害などに対応できる水防等資機材の充実を図る。

※車輛の充実

◎車両に無線受令機の配備を進める。

◎用途別車両（消防車・資機材搬送車）の配備により、機動力の強化を図る。この配備は現車両の更新年次に実施する。

※9年1月5日にスタート

◎組織改革は、平成9年1月5日からスタートする。

改革組織図

